

長期ステロイド外用・内服後の全身浸出症状を経て仕事を続けながら皮膚状態が変化した成人アトピーの経過 (27 歳 女性)

症例 ID：001-20-KKr | 記録日：不明

1. 診断・治療前経過

幼少期から喘息があり、その後、肘や膝裏の湿疹にステロイド外用薬を使用しました。
看護・助産教育を受ける頃には顔の赤みと色素沈着が目立ち、ステロイド内服を約 1 年続けた時期もありました。就職後は夜勤やストレスとともに症状が強くなり、ヘルペスで入院したこともありました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	幼少期からステロイド外用薬を使用し、成人後にはステロイド内服も行いました。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	外用は幼少期から成人期まで、内服は約 1 年間です。
中止時期	1995 年 7 月 30 日の治療開始時です。
来院前／後	来院前に長期使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
幼少期～高校期	発症・外用	喘息に続いて肘や膝裏に湿疹が出て、ステロイド外用を続けました。
看護・助産学校期	悪化	顔の赤みと色素沈着が強くなり、ステロイド内服を約 1 年行いました。
就職後	再悪化	夜勤やストレスとともに症状が強くなり、発熱やヘルペスで入院することもありました。
1995 年 7 月 30 日	治療開始	ステロイドを中止して治療を開始しました。
治療初期	強いリバウンド	全身の赤み、腫れ、浸出液、リンパ節の腫れ、不眠が続きました。
治療 3 年 3 か月後	経過中	かゆみを感じる時間は 1 日約 15 分となり、顔の赤みや黒ずみも目立ちにくくなりました。

4. ピーク時期

ピークは、治療開始後に全身が赤く腫れ、浸出液で白衣が皮膚に付着し、横になることも眠ることも難しかった時期です。

5. 困りごと

- ・助産師として勤務を続けながら、強いかゆみと浸出液に対応する必要がありました。
- ・患者の前で掻くことを我慢し、トイレで全身を掻くことがありました。
- ・睡眠薬を増量しても眠れず、座ったまま朝を迎える日がありました。

6. 経過のまとめ

治療 3 年 3 か月後には、かゆみを感じる時間が 1 日約 15 分まで減りました。
顔の赤みと黒ずみが目立ちにくくなり、見た目ではアトピーと分かりにくい状態で助産師の仕事を続けていました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。